

石川県における令和3年度スモン患者の検診結果と支援

菊地 修一（石川県健康福祉部）
大川 義弘（城北クリニック）
相川 広一（石川県健康福祉部）
四方 雅代（石川県健康福祉部）
山口 由夏（石川県健康福祉部）
森田 真帆（石川県健康福祉部）
長谷川喜美（金沢市）
立田真梨子（金沢市）

研究要旨

石川県における本年度のスモン検診対象者3名について、過去5年間の検診結果等から、スモン患者の現状と療養上の問題点を把握し、身体状況や日常生活等に影響する要因や必要な支援体制等について検討した。

スモン検診対象者3名（男性0名、女性3名）は、年齢は72歳～85歳（平均年齢79.3±5.4歳）、発症年齢は19歳～32歳（平均年齢26.7±5.6歳）、発症後の経過年数は52年～53年で、2名が在宅療養中、1名が施設入所中であった。本年度の検診は、新型コロナウイルス感染症防止対策について検診対象者に説明し、同意を得たうえで実施した。検診参加者は3名で、検診参加率は100%であった。

5年間の経過からは、身体的併発症の発症や、社会的役割の喪失により、身体面・精神面に影響を与えている現況が認められ、身体的併発症の発症や、本人を取り巻く環境の変化を継続的に把握し、心身に与える影響を予測して、早期にサポートしていくことが必要である。

また、併せて、今後も感染症対策を踏まえた対応の工夫が必要である。

A. 研究目的

本県におけるスモン患者の過去5年間の検診結果等から、スモン患者の現状と療養上の問題点を把握し、身体状況や日常生活等に影響する要因や必要な支援体制等について検討する。

B. 研究方法

本年度は、スモンに関する調査研究班の「スモン現状調査個人票」と、「ADLおよび介護に関する現状調査」を用いて、協力医療機関や患者が定期受診している医療機関で検診を行い、その際に保健師が同席して対面によるききとり調査を実施した。検診の実施の際

は、新型コロナウイルス感染症の発生状況を考慮して、感染防止対策を徹底するとともに、「新型コロナウイルス感染症に関する現状」について、同時にききとり調査を実施した。

それらの結果から現状を確認し、過去の検診結果と併せて5年間の経過をまとめた。

（倫理面への配慮）

受診者本人（家族）から受診時にデータ解析・発表について文書または口頭で同意を得たうえで「スモン現状調査個人票」に記録し、データを匿名化して、個人を特定できないようにした。

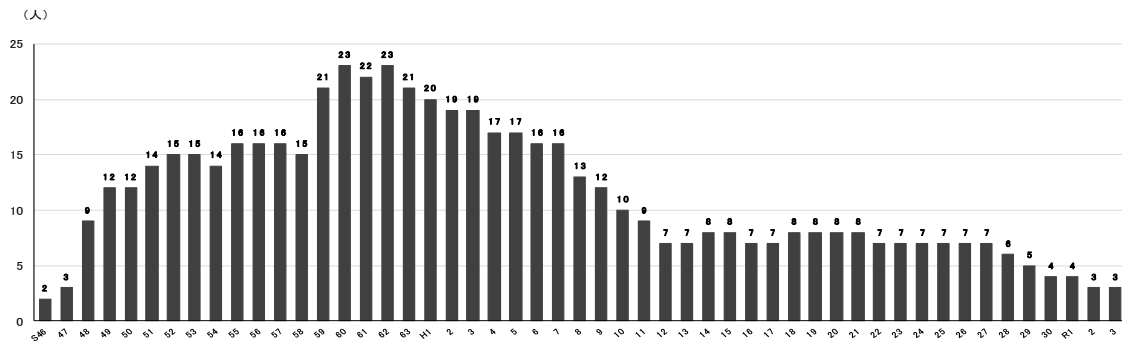


図1 スモン患者数（特定疾患研究事業医療券交付数）の推移（石川県）

C. 研究結果

1) 対象者の推移

本県のスモン患者数（特定疾患研究事業医療券交付数）は、昭和 60 年代の 23 名をピークに減少し、12 年前に 8 名だった対象者は、4 名が亡くなり 1 名が県外へ転出して、昨年度から 3 名となっている。

2) 現状と過去 5 年間の経過

本県のスモン検診対象者 3 名（男性 0 名、女性 3 名）の年齢は 72 歳～85 歳（平均年齢 79.3±5.4 歳）、発症年齢は 19 歳～32 歳（平均年齢 26.7±5.6 歳）、発症後の経過年数は 52 年～53 年で、2 名が在宅療養中、1 名が施設入所中であった。そのうち、本年度の検診参加者は 3 名で、検診参加率は 100%であった。

〈A 氏、85 歳女性、在宅療養中〉

本年度受診状況：協力医療機関で検診受診し、本人にききとり調査を実施している。

- (1) 歩行：「一本杖」で維持している。
- (2) 異常知覚の程度：「中等度」で維持している。
- (3) 身体的併発症：「白内障」、「高血圧」、平成 28～30 年度に「右肩関節痛」があり、本年度から「パーキンソン症候」が加わった。
- (4) 精神症候：「右肩関節痛」があった同時期の平成 28～30 年度に「あり（心氣的）、（不安・焦燥）」であったが、現在は「なし」となった。
- (5) 診察時の障害度：「中等度」で維持している。
- (6) ADL 及び介護の状況

- ① 1 日の生活：「ほとんど毎日外出」であったが、平成 29 年度から「時々外出」となった。

- ② 日常生活動作：自立（Barthel インデックス 100 点）を維持している。
- ③ 生活内容：「手段的自立」、「知的能動性」は満点を維持し、「社会的役割」は 2 点（満点 4 点中）だった。
- ④ 生活の満足度：「どちらかという満足」であった。
- ⑤ 介護度：「要支援 1」を維持し、デイサービスを継続して利用している。

〈B 氏、81 歳女性、施設入所中〉

本年度受診状況：定期通院中の医療機関で検診受診し、家族にききとり調査を実施している。

- (1) 歩行：昨年度から「不能」となった。
- (2) 異常知覚の程度：「軽度」で維持している。
- (3) 身体的併発症：「心疾患」、「慢性胃炎・便秘」、「白内障」があり、令和元年度から「パーキンソン病」が加わった。
- (4) 精神症候：本年度も「なし」であった。
- (5) 診察時の障害度：「極めて軽度」で経過し、昨年度から「中等度」となった。
- (6) ADL 及び介護の状況

- ① 1 日の生活：令和元年度は「家の中を移動」、昨年度から「居間や病室で座っている」となった。
- ② 日常生活動作：パーキンソン病発症前は自立（Barthel インデックス 95 点）を維持していたが、発症した令和元年度から「一部介助」が必要な動作が増え、昨年度からは「全ての動作に介助が必要」な状態（Barthel インデックス 5

点)となった。

- ③ 生活内容：本年度は「手段的自立」は0点、「知的能動性」は1点、「社会的役割」は1点だった。
- ④ 生活の満足度：本年度は「どちらかという満足」であった。
- ⑤ 介護度：令和元年度に介護保険制度を申請し、本年度は「要介護4」となり、現在は施設入所中である。

〈C氏、72歳女性、在宅療養中〉

本年度受診状況：協力医療機関で検診受診し、本人にききとり調査を実施している。

- (1) 歩行：「独歩：やや不安定」で維持している。
- (2) 異常知覚の程度：「軽度」から「中等度」で経過している。
- (3) 身体的併発症：「高血圧」、「糖尿病」、「白内障」に、平成29年度から「頸椎症」と「突発性難聴」、「頭痛」が、平成30年度から「骨粗鬆症」が加わった。
- (4) 精神症候：平成29年度以降、「あり（不安・焦燥）、（心氣的）、（抑うつ）等）」となっている。
- (5) 診察時の障害度：「軽度」から「中等度」のいずれかで経過しており、本年度は「中等度」であった。
- (6) ADL及び介護の状況等
 - ① 1日の生活：「時々外出」で経過している。
 - ② 日常生活動作：自立（Barthel インデックス100点）を維持している。
 - ③ 生活内容：本年度は「手段的自立」は4点（満点5点中）、「知的能動性」は3点（満点4点中）、「社会的役割」は2点（満点4点中）だった。平成29年度から「職業に就いていない」と回答。
 - ④ 生活の満足度：「なんともいえない」から、平成29年度以降は「どちらかという不満足」、「まったく不満足」に変化している。
 - ⑤ 介護度：介護は必要のない状態を維持している。

3) 支援の現状

医療機関で行う検診時に、患者の居所を管轄する県保健福祉センター（金沢市は福祉健康センター）の保健師が同行し、問診等を行うとともに、年に1回の医療受給者証の継続申請時に、各保健福祉センターで職員が面接にて状況を把握し、必要な支援につなげている。

4) 新型コロナウイルス感染症に関する現状調査

3名の対象者に対して、新型コロナウイルス感染症の「感染状況」、「ワクチン接種の状況」、「感染症の感染拡大に関する影響等」についてききとり調査を実施した。

結果、感染者はなく、2名がワクチン接種を受けていた。診療や在宅サービス、日常生活への影響については、特記事項はなかった。

D. 考察

本年度の検診対象者3名について、検診結果をもとに、平成28年度から本年度までの5年間の経過を追ったところ、身体的・精神的に状況に変化がみられた。

A氏については、身体状況や本人を取り巻く環境にはほぼ変化がなかったが、本年度の検診でパーキンソン症候の出現が認められ、今後も注意する必要がある。B氏については、日常生活に支障を及ぼす身体的併発症（パーキンソン病）を発症してから、自立していた日常生活動作が2年間で全ての動作に介助が必要な状態となり、状況に大きな変化がみられた。C氏については、日常生活動作は自立し、介護は必要のない状態ではあるが、社会的役割であった「仕事」を退いた翌年度から身体的併発症の数が増加し、「不安・焦燥、心氣的、抑うつ」といった多くの精神症候が出現している。

これらのことから、身体的併発症の発症や、社会的役割の喪失を契機として、身体面・精神面での大きな変化につながることが認められた。今後も、支援機関である県保健福祉センター等において、対象者の変化を適時に把握し、支援につなげることが必要である。

また、新型コロナウイルス感染症の発生による影響については、今回の調査では認められなかったが、安

心できる検診等の運営について、今後も配慮や工夫が必要である。

E．結論

5年間の経過から、身体的併発症の発症や、社会的役割の喪失により、身体面・精神面に影響を与えている現況が認められた。そのため、身体的併発症の発症や、本人を取り巻く環境の変化を継続的に把握し、心身に与える影響を予測して、早期にサポートしていくことが必要である。

また、併せて、今後も感染症対策を踏まえた対応の工夫が必要である。

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

I．文献

なし